



【青森山田一八学光星】6回八学光星1死一塁、原瑞都が右越えに2点本塁打を打ち3・4と追い上げる。八戸東

光星青森山田に屈す

青森県 春季高校野球

第2日

春季青森県高校野球選手権第2日は18日、八戸長根なる球場で2回戦3試合を行い、工大一や三沢商、大湊、青森山田などが準々決勝に進出した。今春のセンバツに出場した八学光星は青森山田に敗れたほか、八戸西や工大一、八学野西なども涙のみ、夏の甲子園選手権でのシード権を逃した。第3日の19日は、八戸長根、六戸メイブルの2球場で準々決勝4試合が行われる。(取材班)

2 回 戦

さよらの結果
▽2回戦
大湊1-0八戸西
青森商1-0八戸西
弘学聖徳0-1五所工
三沢商5-3工大二
(延長12回)
東 義4-1八学野西
弘前東11-5五所原
青森山田7-5八学光星
工大一11-3青森
(7回コールド)
きよらの試合
▽準々決勝
【八学vs工大一】
大湊青森商10-00
弘学聖徳三沢商12-30
【八戸vs青森】
東 弘前東10-00
青森山田工大一12-30

【球審】 姓名、黒澤、木明 3連打で満塁とし、四球押し出しと工藤聖の中間適時及ばなかった。
【評】 青森山田は1点リードで迎えた七回、八学光星は6回に原の右越えで1点を奪った。九回に代打澤波の適時打で逆転した。三連打で満塁とし、四球押し出しと工藤聖の中間適時及ばなかった。
【評】 青森山田は1点リードで迎えた七回、八学光星は6回に原の右越えで1点を奪った。九回に代打澤波の適時打で逆転した。三連打で満塁とし、四球押し出しと工藤聖の中間適時及ばなかった。

攻守に精彩欠き「力負け」

今春のセンバツ出場校・八学光星が、昨秋の県大会でコールド勝ちした青森山田に敗れて、初戦で敗った。仲井宗基監督は「先発投手が7点を取られてはいけないし、要所で守りにミスもあった。完璧な力負け」と悔しさをにじませた。
電撃に燃える相手投手は、強気に直球で内角を攻めながら、外角の変化球で打ち気をそらす緩急自在の投球。光星打線は狙いを絞られず、打線はつなぐに苦しい。打線に勢いを付けるべく、リードオフマンとして起用されたプロ注目の武岡龍世も、5打数無安打と不振。「カウントを取りにくる球種は分かってはいたのに、仕留め切れずにボール球に手が出てしまった」と悔いた。
先発の後藤丈海は初回、二回と三番凡退に打ち取り、順調な立ち上がりが見えたが、三回に3連打に矢張り総じて逆転を許した。その後も相手に本塁打を浴びるなど7失点。甘い球を逃さない相手打線に苦しんだまま、マウンドを降りた。

2016年以来、3年ぶりにノースードで夏に臨む。武岡主将は「打力が足りなかった。自信を持って迎えられるよう、しっかり練習を積む」と奮起を誓った。(林泰輔)

屈指のカード 2千人超観戦

今春のセンバツに出場した八学光星と昨秋県大会3位の青森山田が初戦で対戦するとあって、県高野連八戸支部は多くの観客を見込んで、会場の八戸東球場周辺に臨時駐車場を確保して、打撃で食いつながったが、及ばなかった。

対戦。試合開始1時間以上前には運動公園内の駐車場が満車となり、臨時駐車場も約400台の利用があった。両陣による試合には県内外から約2千人以上のファンが集まり、ハイベルのゲームを楽しんだ。八戸市中居林、太田中勉さん(75)は「実力校同士の対戦。八戸で対戦することはなかなかないので、楽しみにしていた」。秋田県大館市から訪れた越後大さん(63)は「甲子園で実績十分な青森県の両陣、ぜひ見たくなたと熱く語った。」

一方、運動公園の入り口付近には約20台の路上駐車があり、付近住民から苦情が寄せられたという。青森県高野連八戸支部の関係者は「今後の大会運営にも関わるので、マナーを守ってほしい」と要請していた。(林泰輔)